

やさしい日本語でコミュカをアップする

1. はじめに

「外国人研究者等との日本語を活用した異文化間コミュニケーションの基礎」の研修を受けました。話し言葉編と書き言葉編の2回に分けての開催でした。

1.1 話し言葉編

骨子としては、外国人とのコミュニケーションにおいて、「易しい」「優しい」日本語を使いましょう。結果として、日本語による異文化コミュニケーション能力が涵養され、

「自分だけは知っているが相手は知らないことを、言語を使って相手に伝え、相手を説得する」能力、日本語の調整という重要な言語能力の訓練の場となるでしょうという流れでした。また、多くの具体例を挙げての講義で、有意義で勉強になりました。

特に、「ハサミの法則ワセダ式」という<やさしい日本語>の作り方が紹介され、後に述べるコミュニケーション力に、通ずるものです。

「ハサミの法則ワセダ式」は、以下の書籍が、詳しいです。

・入門・やさしい日本語 外国人と日本語で話そう 吉開 章 アスク出版

1.2 書き言葉編

基本ルールを理解し、実際の現場で実践する基礎力を養うことが目標でした。

「想定された読み手は誰なのか」という提起に始まり、書き言葉の<やさしい日本語>作り方を11項目のルールにしての提示がありました。

ワークショップとして、看板を書き換え、安全のための手引きの掲示物の作成を実践し、より理解を深めることができました。

おわりにの項で、「普通の日本語」から不必要な「飾り」を取り除き、「わかりやすさ」「論理性」などを評価基準にした日本語を使用する努力をすることは、最後は、自身の日本語能力を高めることができるという話で終わりました。

この報告書では、異文化間コミュニケーションという領域を広義に捉えて、自分をとりまくコミュニケーション空間で、「ハサミの法則ワセダ式」と 「書き言葉の <やさしい日本語> 作り方 11 のルール」とを用いて、コミュニケーション空間の概要を検証してみようと思います。

以下からは、良く言えば、仮説の検証、下手すれば、私の妄想です。
適当に読んでください。

2.1 異文化間コミュニケーションについて

異文化（間）コミュニケーション学 とは、「言葉をはじめとした、異なる文化的背景（国・人種・ジェンダー・地域性）を持つ人同士の関わりを見つめる学問」 です。
私の環境では、外国人以外にも、異なる文化的背景があり、コミュニケーション力（これから コミュカ と書きます）の向上の必要性を感じることがあります。

この課題も、今回の講義で学んだ <やさしい日本語> で 解決できないか、
解決できないまでも、検証して、糸口はつかめないかと考えました。

次ページにあるような A さんの職場モデルを考えました。

（あくまでも架空のモデルです。）

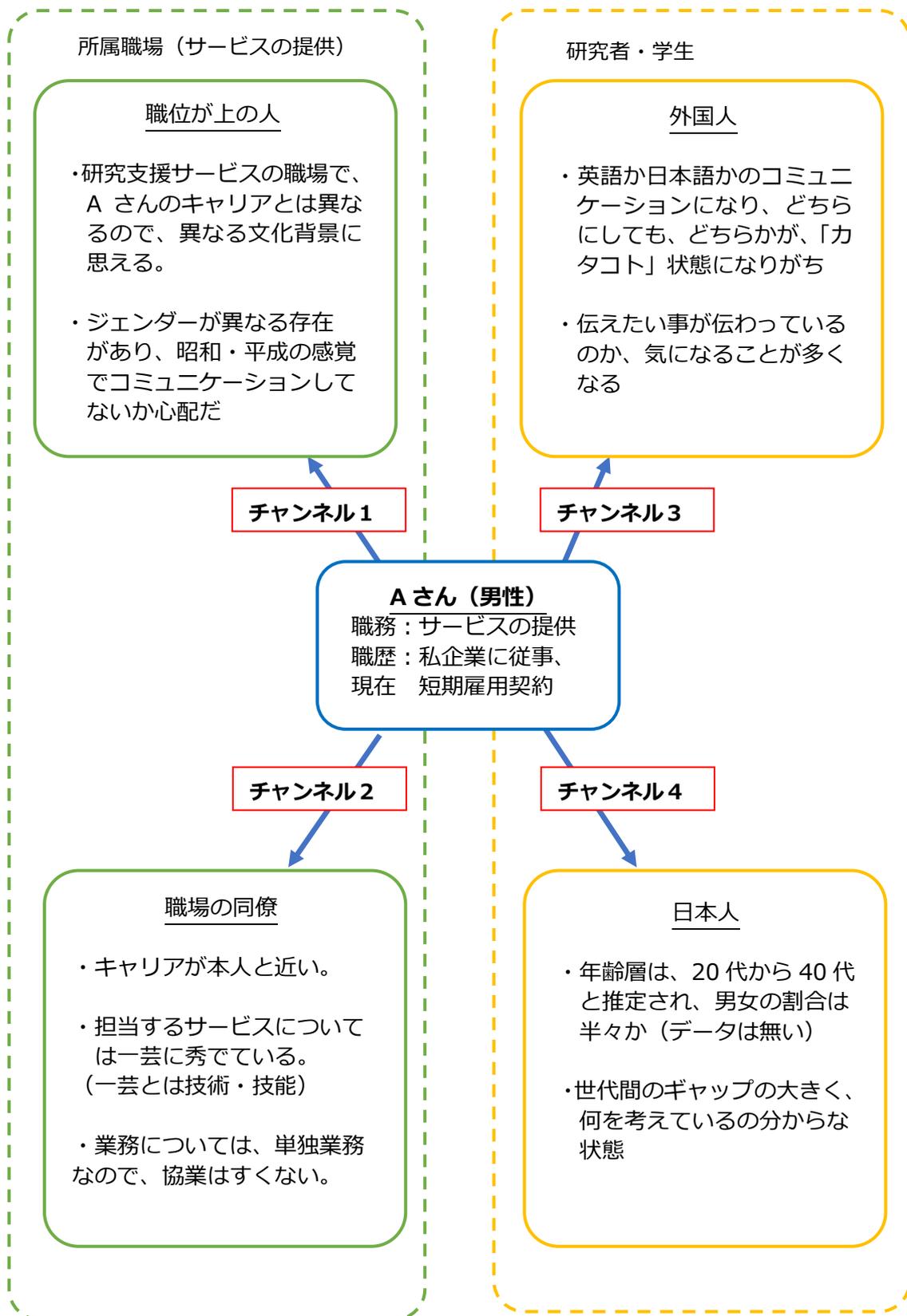
職場は、研究者・学生に研究支援サービスを行う職場です。

A さんは真ん中の青線部で属性として、「私企業に従事していたが、この職場に、短期雇用で雇用されている男性」としました。

左枠が、所属職場で、職位が上の方の枠 と 同僚の方の枠があります。

右枠が、サービスを利用する人達で、外国人 と 日本人の枠があります。

四つの枠への A さんからのコミュカ実践のチャンネルとして、チャンネル1からチャンネル4 と名付けました。



2.2 チャンネルの説明

チャンネルの先は A さんにとって、異なる文化的背景と見えています。チャンネル別に、その概略を説明します。(念押しですが、これは架空のモデルです)

チャンネル1：ここは、A さんにとって、雇用主ですので、良い関係が望ましいです。

普段からの関係を良好にしていたと思ってます。

難点は、A さんとチャンネル1の方のキャリアの過程が、

異なるため、理解しづらいところがあります。

加えて異性の場合、自分の言葉等の振る舞いに誤りがないのか

気になります。 以上は、異なる文化的背景の人と感じます。

チャンネル2：職場の同僚ですので、コミュカは発揮しやすいはずです。

協働で行う業務が少ないので、1年間、話をしないことも可能です。

チャンネル3：外国人ですので、今回の研修の対象であり、

異なる文化的背景を持つ人達です。

チャンネル4：日本人であり、同じ文化的背景を持つように思えますが、

世代間のギャップがあり、行動原理とか思考過程が理解しづらいところがあります。

2.3 検証の方法

今回学んだ「話し言葉ハサミの法則ワセダ式」と 「書き言葉の<やさしい日本語>作り方11のルール」をツールとして、上記のチャンネルを考えます。

「話し言葉ハサミの法則ワセダ式」と 「書き言葉の<やさしい日本語>作り方11のルール」の各項目を、項目別チェックリストにします。

項目別にその難易度を1から3点(高い方が難易)として、重みとします。

(難易度は、人により異なるはずです)

次に、チャンネル別に、コミュカを発揮する時に、必要な項目を最大5個選びます。

そして、チャンネル別に得点を比較します。この得点を、ストレッチ度と呼びます。

(いつもより背伸びして対応するからです)

最大のストレッチ度の合計は 15 点になります。15 点は、コミュカの最大到達点とし、これ以上は、限界とします。チャンネルのストレッチ度が高い程、コミュカの発揮のハードルが上がるかと考えます。

次ページに、話し言葉チェックリスト と 書き言葉チェックリストについて、A さんの場合でまとめてみました。

2.4 分かったこと

話し言葉、書き言葉について、チャンネル別のストレッチ度を、大きい順に並べました。

話し言葉

職位が上位の人	12
外国人	11
日本人	7
職場の同僚	5

書き言葉

外国人	13
職位が上位の人	12
日本人	8
職場の同僚	5

- ・職位が上位の人 と 外国人 において、ストレッチ度は高いです。
書き言葉では、外国人、話し言葉では、職位が上位の人が高いでした。
- ・日本人は、大きな世代間ギャップと言いますが、ストレッチ度は高くないです。
- ・職場の同僚は、話し言葉、書き言葉の両方で、ストレッチ度は、低いです。
- ・A さんは、職位が上位の人 と 外国人 とコミュニケーションする時は、チェックリストを、片手に持って、対処した方が良いでしょう。

話し言葉チェックリスト（「ハサミの法則ワセダ式」）

	チェックポイント	難易度	チャンネル1	チャンネル2	チャンネル3	チャンネル4
1	<u>はっきり言う</u>					
	明瞭な論理で話す	3	3			3
	明瞭に発音する	2			2	
2	<u>さいごまで言う</u>					
	文末を曖昧にしない	2		2		
3	みじかく言う<最重要>	3	3		3	
	主語と述語は一文に一組	2	2		2	2
3.1	わけて言う（重文・複文は単文に、 連濁は分ける おN ごNは避ける）	1			1	
3.2	せいりして言う	3	3		3	
3.3	<u>だいたんに言う</u>					
3.3.1	敬語は使わない	2		2		2
3.3.2	訓読み＝和語を使う	2				
3.3.3	名詞化された動詞は元に戻す	1				
3.3.4	できることはできる できないことはできないと言う	1	1	1		
3.3.5	豊かな表現はあきらめる	1				
	合計		12	5	11	7

書き言葉チェックリスト（〈やさしい日本語〉作り方 11 のルール）

	チェックポイント	難易度	チャンネル 1	チャンネル 2	チャンネル 3	チャンネル 4
1	読み手目線で情報の整理をする	3	3		3	3
2	余分な情報はカットする	3	3			3
3	伝えたいことを前に持ってくる	2		2		
4	必要に応じて補足情報を加える	2	2	2		2
5	一文中で、一つの情報提供に留める	2	2		2	
6	一文を短くする	1				
7	主語と述語を明確にする	2	2		2	
8	難しい言葉を易しい言葉に書き換える	3			3	
9	分かち書きにする	2				
10	漢字にはすべてルビをふる	3			3	
11	必要に応じて、写真やイラストをつける	1		1		
			12	5	13	8

3. 終わりに

ここまで読んでいただき、有難うございます。

最近、コミュカの不足を痛感することが多々あります。

今回の〈やさしい日本語〉の講座は、コミュカ向上の指針になるように思いました。